平成 26 年度業務実績報告書 修正案 新旧対照表

項目番号	原文	修正案
28	【取組実績】	【取組実績】
	・ティーチング・アシスタント制度について、延 110 名を対象	・ティーチング・アシスタント制度について、延 110 名を対象
	に実施した。	に実施した。なお、同制度の運用にあたっては、教育訓練効果
		の検証に取り組むとともに、業務内容の一層の明確化を図った。
32	【取組実績】	【取組実績】
	・平成 26 年度より、大学院薬学研究科の各専攻・各課程におい	・平成 26 年度より、大学院薬学研究科の各専攻・各課程におい
	て、秋入学のシステムを開始し、平成 26 年 10 月に、博士前期	て、秋入学のシステムを開始し、平成 26 年 10 月に、博士前期
	課程に外国人留学生(中国)が入学した。これに伴い、秋入学	課程に外国人留学生(中国)が入学した。これに伴い、秋入学
	者のための英語による大学院講義システムを構築し、運用を開	者のための英語による大学院講義システムを構築し、運用を開
	始した。	始した。
	・中国の瀋陽薬科大学と黒竜江中医薬大学を訪問し、大学院生	・中国の瀋陽薬科大学と黒竜江中医薬大学を訪問し、大学院生
	の留学について広報活動を行った。	の留学について広報活動を行った。
	・大学院生の確保のために医学研究科と「国費外国人留学生の	・大学院生の確保のために医学研究科と「国費外国人留学生の
	優先配置を行う特別プログラム」の申請を行なった。	優先配置を行う特別プログラム」の申請を行なった。
	・2回目の大学院博士後期課程、博士課程の入試が実施され、後	・2 回目の大学院博士後期課程、博士課程の入試が実施され、
	期課程で4人、博士課程で1人合格し、充足率がともに100%、	後期課程(創薬生命科学専攻)で4人、博士課程で1人合格し、
	180%となった。	充足率がともに 100%、180%となった。
	・大学院の各専攻の入試の英語の募集要項の作成を行い、平成	・大学院の各専攻の入試の英語の募集要項の作成を行い、平成
	27年度より配布する予定である。	27年度より配布する予定である。

- ・フィリピンのサント・トーマス大学およびトルコのハジェテ|・フィリピンのサント・トーマス大学およびトルコのハジェテ 平成 27 年度夏に合同で国際シンポジウムを開催することを決し 定した。
- ・フィリピンの生化学・分子生物学会年会で名市大で行なわれ ている研究の一部を発表し、本学の研究を紹介するとともに、 大学院生の留学について意見交換を行った。

【取組の成果、課題】

- 複数教員による集団指導体制による、各専攻科での人材育成 の目的に沿った教育が着実に実施されている。
- ・博士後期課程(創薬生命科学専攻、ナノメディシン科学専攻) の学生定員が満たされておらず、充足率の向上が求められる。
- 1.4 倍ほどの学生が入学しており、入学者数、あるいは定員の是 1.4 倍ほどの学生が入学しており、入学者数、あるいは定員の是 正が必要である。
- 英文化を進めるとともに、春・秋を問わず、さらなる留学生の 入学者数を増やす方策を考えていく必要がある。

- ペ大学を訪問し、大学院生の留学について広報を行うとともに、| ペ大学を訪問し、大学院生の留学について広報を行うとともに、 平成 27 年度夏に合同で国際シンポジウムを開催することを決 定した。
 - ・フィリピンの生化学・分子生物学会年会で名市大で行なわれ ている研究の一部を発表し、本学の研究を紹介するとともに、 大学院生の留学について意見交換を行った。

【取組の成果、課題】

- ・複数教員による集団指導体制による、各専攻科での人材育成 の目的に沿った教育が着実に実施されている。
- ・博士後期課程(ナノメディシン科学専攻)の学生定員が満た されておらず、充足率の向上が求められる。
- ・一方、博士課程は学生定員を満たしてはいるが、逆に定員の↓・一方、博士課程は学生定員を満たしてはいるが、逆に定員の 正が必要である。
- ・国際化に向けて、募集要項、入学願書、ウェブサイトなどの↓・国際化に向けて、募集要項、入学願書、ウェブサイトなどの 英文化を進めるとともに、春・秋を問わず、さらなる留学生の 入学者数を増やす方策を考えていく必要がある。